

## はじめに

思えば私が熊本県庁に入庁した平成 7 年 4 月に、当研究所はそれまでの熊本市中心部から、自然に恵まれた閑静な環境のこの地に新築移転しました。それから 27 年を過ぎようとする中で、行政改革に伴う人員及び予算の削減、団塊の世代のベテラン職員の退職等の苦難を乗り越えながら、地域保健、公衆衛生、環境保全に関する科学的・技術的中核として、専門的な技術や知識を駆使し、県民の健康及び地域の環境を守るための調査研究に取り組んできました。

特に、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症への対応については、職員一丸となり検査機関としての役割を果たしてきました。しかしながら、収束しては新たな変異株が出現する、いちごっこのようなウイルスとの戦いは、その収束時期は未だ不透明です。

さて、この所報には、そのような中でも令和 2 年度に進めてきた調査研究の成果等を取りまとめています。一例を挙げますと、人獣共通感染症を引き起こす細菌である *C. ulcerans* の野良ネコにおける保有状況調査、一斉分析ができる成分数の少ない高極性農薬に関する LC/MS/MS による農産物中の残留農薬の一斉分析法の開発、魚のへい死の原因推定のためのへい死魚体エラ中の農薬蓄積性の評価、などです。関係者の皆様には、是非とも御高覧いただき、御活用いただくとともに、忌憚のない御意見を頂戴いただければ幸いです。

最後に、平成 28 年熊本地震発生からの創造的復興を進める中での、新型コロナウイルス感染症への対応、さらに令和 2 年 7 月 4 日に県南地域を中心に発生した甚大な豪雨災害からの復興と、まさに三重苦を背負いながらの県行政ではありますが、県民の皆様の安心・安全を確保するため、引き続き他機関等とも連携・協力しながら検査体制の充実・強化に取り組んで参ります。

引き続き、関係各位の御支援及び御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 4 年 3 月

熊本県保健環境科学研究所

所長 廣畑 昌章

